

# 誰でもできる、 人が生き生きと働くクリニック

医療法人社団スマイル&ファイン  
いしがみ整形外科クリニック  
石神 等

キーワード **整形外科** **理念経営** **チームワーク**

## クリニックプロフィール

専門科	整形外科
開院年	2017年5月
地域	埼玉県川越市
スタッフ人数	16名
分院	なし
理念	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療を通して一人でも多くの患者様に安心、笑顔、元気、幸福を提供することに全力を尽くす。</li> <li>2. スタッフは当院を普段の自己実現の場とし、助け合い、物心両面の幸福を実現する。</li> <li>3. 医療を通じた社会貢献という重要な役割に自覚を持ち、感謝し謙虚な心で行動する。</li> </ol>

### ● はじめに

この章を読んでいただいた皆さん、はじめまして。

私は埼玉県川越市で、2017年5月より「いしがみ整形外科クリニック」を開業しました。実は**以前の私とはとにかく人間関係がうまくいきません**でした。相手の気持ちを考えずに責めてしまい、仲間を傷つけてしまったり、目標達成だけに執着しすぎてチームの人間関係を壊滅させてしまったこともあります。ただ当時の私は、その原因は自分にあると思っていませんでした。「なんでわかってくれないんだ、正しいことをしようとしているのに、なぜ伝わらないんだ」。そう思えば思うほど怒りがこみ上げて、**感情に任せ**

で行動してしまう。そしてさらに適切なコミュニケーションが取れなくなるという悪循環に陥っていました。

人としてもっと成長したい。私がそう強く思ったのは、最愛の妻と結婚して、娘が産まれたことがきっかけです。そこで元スターバックスコーヒージャパン CEO、岩田松雄さんの『ついていきたい』と思われるリーダーになる51の考え方』（サンマーク出版）や斎藤一人さんの『微差力』（サンマーク出版）など、さまざまな自己啓発本を読みはじめました。しかし、すぐに変わりません。今考えると、人生の明確な目的がはっきりせず、**周囲の人の幸福を心から願って接していなかった私自身に一番の原因**があったんだと反省しています。人を思い通りにコントロールしようとし、相手の意見を受け入れることができない。そんな私に対して、周囲の人はコミュニケーションをとるのが嫌だったのでしょう。

そんな私が、**開業して2年**が経とうとしています。当クリニックは2018年5月現在、1日の来院患者様160名を超えており、おかげさまで順調に経営もできています。また、**当院はとても雰囲気がよく、チームワークが良好で、創業メンバーで、離職者がいない**ことが特徴です。この結果は、以前の私からすると全く予想ができないものなのですが、実際に行ったことはとてもシンプルで、誰でもできることだと思っています。

私のクリニックの理念は

1. 医療を通して一人でも多くの患者様に安心、笑顔、元気、幸福を提供することに全力を尽くす。
2. スタッフは当院を普段の自己実現の場とし、助け合い物心両面の幸福を実現する。
3. 医療を通じた社会貢献という重要な役割に自覚を持ち、感謝し謙虚な心で行動する。

の3つであり、この理念を行動の基軸において日々の業務を行っています。

私がどのような人間で、**なぜ変わろう**と思い、そして**何を学び実践**し、今

のような結果を得たのか。それを時系列に沿って詳しく伝えたいと思います。私の章はどちらかというと開業の「やり方」よりは開業医として、経営者としての「あり方」の内容が濃くなっています。その中で、皆さんの今のお悩みを少しでも解決するお手伝いができればとても嬉しいです。

## 1 開業医としての夜明け前

どうい治療が効果的か、どのような診断を下せば患者様のためになるのか。勤務医時代、私は一生懸命手術に取り組んでいました。私の腕次第で、患者様の状態がよくなる。そこに特別なやりがいを感じていたのです。

私は2002年に医学部を卒業し、日本大学医学部整形外科に入局しました。それから大学の医局員として10年在籍し、大学病院や関連の出向病院に勤務しました。大学病院では、自分の専門分野に関する論文を執筆したり、学会で発表したりすることが当たり前です。しかし私は学会発表や研究、論文はからっきし駄目でした。発表は好きで賞をとったこともあります。論文などは準備をしなければいけないことが多く、それよりも对患者様とのコンタクトを増やしたいと考えてしまっていたのです。どうしても治ってもらいたい。そういう姿勢を大切にしながら、一人ひとりの患者様としっかりと向き合って治療に当たっていました。

整形外科医を希望したのは、勤務している先生たちが格好良かったからという単純な理由です。背が高くスポーツマンばかりで、豪快に酒を飲んだかと思えば、翌朝には真剣に患者様に向き合う。一般的な医者イメージとは全く違う姿に惹かれて、私もそうなりたと思いました。

また、人工関節の手術に興味を覚えたのも、整形外科を選んだ理由の一つです。医学部5年生の頃の臨床研修ですべての科を回りましたが、整形外科の手術が圧倒的に面白く感じました。切る箇所が大きくてダイナミックで、歩けなかった人が歩けるようにもなりますから。それに私自身、大学時代にテニスをしていて影響も大きいと思います。学生時代は硬式テニス部で、文

字通りテニスにすべてを注いでいました。気性も荒く、うまくいかなければラケットを折ってしまうこともあったほどです。自分のラケットがなくなってしまい、先輩にラケットを借りていたのにそのラケットまで投げてしまった時は本当に怒られました。

整形外科の医師になってからも、先輩には厳しく教えられたことに感謝は尽きません。現在の私がいるのは、当時、指導してくれた先輩方のおかげです。そうした影響もあり、私も後輩に厳しく指導をすることが正しいと思っていました。しかし、後輩やコメディカルの方々への扱いが酷すぎて、病院に異動を命じられた経験があります。今考えるとかわいそうなことをしたあとと反省していますが、事の詳細はまた後ほどお話しします。

## 2 開業への思い ～川越での人とのふれあい～

2013年、私は大学の医局を辞め、埼玉県川越市の「医療法人豊仁会 三井病院」に転職しました。このタイミングで川越に行った理由は3つあります。

まず1つ目は、自分の中で理想の手術ができるようになったことです。前職の横浜中央病院で、整形外科部長（当時）の矢作宏先生に整形外科の手術の基本、後輩の手術の仕方を改めて教えていただきました。また、私の専門であった、膝の人工関節の手術の方法を、自分なりに確立していきました。通常、人工関節の手術では一つひとつの骨を確認しながら削っていきます。しかし、私は患者様の身体への負担を考慮して、どうにかノンストップでできないかと考えていたのです。試行錯誤の末、そのスタイルを確立させたことで大きな自信が生まれ、新しいフィールドで挑戦したいと思うようになりました。

2つ目の理由は、留学の断念です。自分自身の可能性を広げるため、海外留学をしたいと考えていました。しかし、論文や発表を積極的に行っていなかったことが仇となり、最終的にチャンスをつかむことができなかったので

す。そして大学にいる理由も薄くなり、整形外科医としてのキャリアを改めて考えるようになりました。

そして3つ目が結婚です。私は、医師になって2年目から週一のペースで、埼玉県川越市にある三井病院で診察を行っていました。先輩に言われて行きだしてから足掛け8年。まだ右も左もわからなかった不安な私を迎え入れてもらったのはもちろん、温かく教えてくださったり、バイト代をいただいていたことにも本当に感謝しています。

川越の一番の魅力は人です。私も医師としていろいろな街へ出張に行きましたが、川越が一番肌に合いました。川越の方々は本当に人が温かく、患者様もとても良い方ばかりです。そもそも川越は「小江戸」と呼ばれ、国内外から年間約600万人も観光客が訪れる、埼玉県屈指の観光地として知られています。美しい「蔵造りの街並み」をはじめ、古き良き伝統を残しながら成長を続けるすばらしい街です。その影響から物事に対する理解が深く、受け入れる心も広いのではないのでしょうか。川越生まれ、川越育ち、そして川越で学んで就職し、川越で家族を作る人もたくさんいます。私自身は生まれと育ちは、東京都世田谷区です。しかし、人を通して、川越の魅力に気づき、この町の役に立ちたいと思うようになりました。そして妻の実家が川越市に隣接する坂戸市ということもあり、結婚と同時に医局を辞め、川越の病院に就職し、他の医院とも仲良くしながら川越の整形外科を良くしていきたいと考えていたのです。

転職して2年目の頃、同じ病院の先輩が独立したときに「隣の敷地が空いているから、石神も来ないか」と誘われました。当時、手術を沢山行いたくて、開業は今ではないと考えていた私は先輩の誘いを一度は断りましたが、決定的な転機はその後すぐにやってきます。

